

国の審査を通っても「リスクゼロではない」 玄海原発3・4号機再稼働の中止を求めます

2018年3月1日

(株)九州電力 代表取締役社長 瓜生道明 様

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会 代表 石丸初美
プルサーマルと佐賀県の100年を考える会 共同世話人 野中宏樹
玄海原発反対からつ事務所 代表 北川浩一

九州電力は今月下旬にも玄海原発3号機を起動しようとしています。3号機は猛毒プルトニウムを使ったプルサーマルであり、事故時の放射能の範囲は4倍になるなど危険性は増します。

東京電力福島第一原発事故から7年、事故は今なお収束しておらず、原子力緊急事態宣言は発令中です。そうした中、フクシマの教訓を踏みにじり、住民の不安と疑念の声を無視した原発再稼働という暴挙を私たちは絶対に許すことはできません。

以下の要請を受け止め、質問への回答を求めます。

【 要請事項 】

玄海原発3・4号機再稼働の中止を求めます。

【 質問事項 】

※下記質問は1月9日付要請・質問書に追加するものです。(1)①～⑥と(2)①～⑦はその際に提出済みです。下記の(1)⑦～⑨、(2)⑧、(3)～(6)が追加質問となります。

(1) <伊方原発差止決定>阿蘇カルデラ噴火で玄海原発も立地不適となる問題について

⑦更田委員長は2月11日、唐津市にて11自治体の首長らと面談した時(瓜生社長も同席)に「(火山について)発電所のリスクを定量的に示せるような技術的段階にあるといえない。たとえば地震とか故障、人的過誤ではこれぐらいのリスクと分かっても、津波はまだまだ、火山はまったく分からない。」と発言した。規制委員会が分からない火山リスクについて、九州電力は分かるのか。

⑧火砕流について川内原発ではシミュレーションを行ったが、同様のシミュレーションをなぜ玄海原発では行わないのか。

⑨破局的噴火について九電はモニタリングを行い、国土地理院の地殻変動データと気象庁の地震活動データを基に地下のマグマ溜まりの変化を「総合的に判断する」という。今までに予兆を捉えることができた例を具体的に示されたい。「総合的判断」の規準を具体的に示されたい。

(2) 神戸製鋼所データ不正問題について

⑧昨年発覚した三菱マテリアルの子会社、三菱電線工業、三菱伸銅の2社のデータ不正に続き、今年2月8日、新たに三菱アルミニウム、立花金属工業、ダイヤモンドの3社の不正が発覚した。これらの製品は玄海原発と川内原発で使われていなかったか。

(3) 使用済み核燃料について

①再稼働すれば使用済み MOX 燃料がすぐに出てくる。3 サイクル使用した後、使用済み燃料プールに何年間貯蔵するのか。その後、具体的にどこへ搬出する予定か。

※前々回質問「使用済み燃料はウラン、MOX、それぞれどこに何年保管し、いつどこへ搬出することになっているのか」の質問に、前回具体的回答がなかった。

②使用済み核燃料の乾式貯蔵施設の建設をする予定があるのか。あるとすれば、それはどこか。

(4) 造成中の 12ha の敷地の利用目的について

発電所敷地に隣接する場所(薬草園近く)に12ha もの土地の造成が進んでいる。現場には「資機材等の受け入れ場所や機器の予備品を保管する倉庫などを設置する目的で用地の整備をしている」と説明書きがあった。工事期間は来年 3 月 31 日までとも記されている。広大な敷地に具体的に何をつくろうとしているのか。土地は誰から、いくらで取得したのか。

(5) 原子炉容器上蓋未交換問題について

安全上きわめて重要な部位である玄海原発 3 号機の原子炉容器上部蓋について、九電は 2010 年 2 月 8 日に原子力安全・保安院に対して交換工事の申請を行った。米国の原発の上部蓋で激しい応力腐食が発生し、全国すべての加圧水型原発で改良型への取り換えが「予防保全」として進められた。しかし、3.11 の後、審査が中断し、交換計画は放棄された。玄海 3 号機のみ全国で唯一交換されていないのである。そして、今、交換計画もないまま再稼働しようとしていることは安全軽視甚だしい。

「審査完了後に上蓋交換の申請をする」と決めたのはいつか。また、いつ交換するのか。(前回 2017 年 7 月 26 日未回答)。

(6) 消費者と向き合わない九電の姿勢について(別紙)